

さくら第450号

平成29年6月

さくら

発行所 さくらそろばん
 発行者 平瀬重雄
 春江町境 17-7:TEL51-1337
 hirase@mx2.fctv.ne.jp



『塾報さくら第450号発行』

毎月1回「さくら」を発行し続けて37年と6ヶ月が経ちました。第1号を1980年(昭和55年)1月8日に発行したときはB5版裏表のタテ書きで和文タイプライター使用でした。

今では全く見ることのない機器であり、上下逆の活字板を見ながら、パチンパチンと原紙に1字ずつ打ち込みます。故障したときは手書きで発行したこともあります。

第37号からは今のページ立てになり、ワープロ(ワードプロセッサ)が出始めたころなのでタイトルなどを試験的に使いました。その後109号からは横書きに替えワープロで全面作成。第130号から1ページの冒頭に相田みつを氏の言葉を引用掲載しています。

無断掲載のお詫びと今後への掲載許可をいただくために1994年6月12日に「故相田みつを展」開催中の大阪へでむき許しと許可をいただきました。

印刷機はこれまでに8回の機種変更を行い第199号からは4色カラードラムを使い、2005年からは2・3ページをカラーコピー印刷に切り替えました。

日々使用する教材は出版社から購入する段位・級位・伝票など以外は大半を自宅で作成しています。最初はこれまた今では見ることのできない謄写版印刷でした。蠟紙(ろうがみ)という原紙に鉄筆という先のがったペン先で1字ずつ書き込みます。蠟紙はヤスリの目のようにザラザラになった台の上に置き、書き込みます。力を少しでも強くすれば紙が破れます。筆

圧が弱いと薄くて、印刷してもはつきり出ません。1枚の原紙で謄写版では80枚ほど刷ると線が破れてしまいインクがにじみ出て使えず、それ以上の枚数ではまた最初から作り直さねばなりません。そのころはまだコピー機がなく、今とは全くちがひ時間がかかりました。

さくらそろばんでは授業参観というものがなく検定試験や競技大会、いろいろなお知らせなどを渡すのにも不便でした。

また、日々の授業のなかで感じている私の思いや塾生たちの様子のいったんなどを保護者の皆様にお伝えする必要性もあり、塾新聞を発行することにしました。

毎月の塾新聞に自分の氏名が載り、友だちなどの進み具合を知ることにより、励みと競争意欲などレベルアップに連なる資料になればと願っています。

そろばんコンクールを毎月2回行い、よいほうの点数を集計して以前は新聞に掲載していましたがその後は別刷りで渡しています。同じ学年でも生まれた月日がちがひ、入塾した日もみな別々なので、学年だけの集計では不十分になります。

そこで、点数の多い少ないには関係なく、前の月よりいかにアップしたかを記録する「連続アップ」というシステムをもうけ、5か月連続アップ以上の皆さんには年度末にその証(あかし)としてトロフィーを贈っています。4か月でストップする人がけっこう多いのであと少しのがんばりをと願っています。

「継続は力なり」とよくいわれます。続けることによって得る事は多くありそれらが自分の強い自信となり意欲がアップします。何事も習慣化することによりさらに続けることができます。

継続するための方法として私は今日だけ頑張ろう、今月号だけは発行しようと思いながら続けています。『あきらめるな、一度あきらめたらそれが習慣になる』(がんばれベアーズより)の気持ちで毎号を発行しています。あきらめない気持ちを持ち続けて前進しましょう。